

## 講師への疑問・質問に対する回答票

No.	質問	回答
1	<p>決めつけた発言がアンコンに繋がる。という認識を致しました。</p> <p>ジェンダー視点で考えると、男女という区別 年齢でいうと高齢と若年という区別 このような「区別」という捉え方をすることがアンコンに繋がりがやすいということでしょうか。</p>	<p>ご認識の通りです。同じ男性（女性）でも考え方・価値観など一人一人異なりますので、一括りにしてしまうと不快に感じる方もいらっしゃるかもしれないということです。</p> <p>あえて「区別」と記載いただいている点は、恐らく「差別」との違いも意識されてのことと存じます。人権問題などを議論する際に、この2つの違いは出てきて、「区別」は「それぞれが本来持っている個性や特性のちがいで分けること」なので問題ない、といった意見も見聞きしますが、「区別」によって、不快・不便に感じる方がいれば、それは「区別」であっても、アンコンシャス・バイアスにつながるということです。</p>
2	<p>思いやりのあるコミュニケーションのために必要な考えをお伝えいただき、ありがとうございました。</p> <p>アンコンシャス・バイアスを意識している人物と、アンコンシャス・バイアスに気が付かない人物とがコミュニケーションをする時、アンコンシャス・バイアスを意識している人物の方が、よりストレスを感じる状況が生まれそうだと感じました。</p> <p>このアンコンシャス・バイアスについて、政府や行政機関は、何か具体的な目標・指標を設定しているのでしょうか？</p>	<p>私が知る限り、政府や行政機関から「アンコンシャス・バイアス」についての具体的な目標・指標は発表されておりません。ただ、女性活躍推進法では女性の管理職比率アップ、障害者雇用促進法では法定雇用率の引き上げ、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）憲章では、男性の育休取得率アップ、など、様々な法改正の元で、具体的な目標数値は設定されています。アンコンシャス・バイアスは、それらの目標を達成するために、国民一人一人の意識改革が必要ということの1つの手段として、取り上げられていると私は認識しております。</p>

3	<p>アンコンシャス・バイアスについて、職場内はもとより地域社会においても広げていければと感じました。どのような手法で地域へ広げていけばよいのか、実践例を含め、お話を聞けたらと思います。</p>	<p>まずは、「自分のアンコンシャス・バイアスかも」からはじめていただきたいです。自分の思い込みかも、と思ったことを職場内、地域社会に問いかけてみていただくことで、問いかけられた方が「アンコンシャス・バイアス」を知るきっかけになり、草の根運動的に広がるかと存じます。</p> <p>一例として、職場内でアンコンシャス・バイアスボードのようなもの（模造紙に付箋でも可）を用意して、自分の思い込み？と思った内容を張り出し、それに対して、意見がある人が自由に張り出していく方法です。例えば、「今の若い人は会社の飲み会に参加したくない。これって私のアンコンシャス・バイアス？」と張り出し、それを見た若い方達が、「私は、会社の飲み会に参加したくないのではなく、上司の自慢話を聞かなければいけないのが嫌なだけです」など、それぞれの意見を張りだすという方法です。この時のポイントは、張り出された意見を絶対に否定しない、ということです。心理的安全性が確保されることが保障されていないと、誰も張り出してくれません。何度も申し上げますが、まずは「私のアンコン？」をたくさんの方に問いかけることが大切で、「それはあなたのアンコンだよ」と相手を攻撃することだけは避けていただきたいです。</p>
---	---	---

以上